

**日墨パートナーシップ・プログラム(JMPP)環境分野の第三国研修(2012-2018)
における日本の ODA 評価<概要>
(被援助国政府・機関等による評価)**

1 調査対象国:メキシコ合衆国	
2 評価者: メキシコ外務省国際開発協力庁(AMEXCID) コンサルタント:山下 恵理子	
3 評価実施期間: 2018 年 11 月 13 日～2019 年 2 月 28 日	

(写真:ホンジュラスにおけるメキシコ水技術研究所(IMTA)による助言活動)

4 評価内容
(1)背景 JMPPは2018年で15周年を迎え、メキシコ外務省国際開発協力庁(AMEXCID)と日本国外務省は、これを記念し、受益国並びにメキシコにおける JMPP による成果を分析するため、被援助国による日本の ODA 評価に合意した。
(2)評価目的 JMPP に対する日本の政策全般を検証し、それから導き出された教訓をもって日本政府のメキシコに対する将来的な援助計画やその効率的・効果的な実施の参考とするとともに評価結果を広く公開し説明責任を果たすものである。
(3)評価対象 本評価は、2012～2018 年(日本の会計年度の 2012～2017 年度)に実施された JMPP のうち、環境分野における4案件の第三国研修を対象とする。 - 気候変動のパラメータとしてのメソアメリカ地域における沿岸水モニタリングにかかる第三国研修(2012-2014 年度) - 廃棄物の再評価に焦点を当てた持続可能な水とスラッジ処理の代替技術にかかる第三国研修(2012-2014 年度) - 3R(削減、再使用、再利用)を中心とした統合的廃棄物管理のための機器開発にかかる第三国研修(2012-2014 年度) - 資源循環型社会システムの構築にかかる第三国研修(2015 年度)
(4)評価方法 日本の外務省が作成した“被援助国政府・機関等による評価ガイドライン”(2018年6月)をもとに、次の3つの観点から本評価を行った。 ・政策の妥当性 ・結果の有効性 ・プロセスの適切性 評価者は、以下の方法で情報収集等を行った。 - 政策文書、プロジェクト文書、第三国研修の報告書、統計資料及び AMEXCID が提供する文献の包括的なレビュー - 受益国、関係機関及び第三国研修実施機関に対するアンケート - インタビュー(電話によるインタビューを含む)、会議、テレビ会議 なお、全体のプロセスを通じ、評価者は最終報告を作成するまで AMEXCID と本評価に関し議論を重ねた。

5 評価結果のまとめ(総括)

JMPP の大目標である「JMPP を通じた日墨両国間の戦略的関係強化」を評価するため次の JMPP の2つの最終目標を”政策の妥当性“及び”結果の有効性“の観点から評価した。

i) ラテンアメリカ地域に対する JMPP 支援の観点<最終目標1>

ラテンアメリカの地域開発支援、特に環境分野における革新的かつ戦略的な三角協力の展開、これまでのメキシコへの日本の ODA 支援

ii) メキシコに対する日本の ODA 支援の観点<最終目標2>

JMPP を通じた AMEXCID 及び実施機関の組織的能力を強化するためのメキシコへの支援

なお、プロセスの適切性は上記2つの目標を達成する活動が共通であるため本評価では、一つの章にて双方の目標を分析した。

(a-1) 政策の妥当性(最終目標1)

環境分野におけるラテンアメリカ地域開発支援は、計画時及び事後評価時双方において、日墨両国の上位政策と高く一致している。メキシコにおいては、国際開発協力法(2012 年)及び国家開発計画(2013-2018)等と一致している。また、日本のラテンアメリカ地域に対する ODA 政策は気候変動への対応やパートナーシップ・プログラムの活用を含んでいる。第三国研修の全目標は、開発政策及び受益国のニーズと関連が見られた。

(b-2) 結果の有効性(最終目標1):

4件の第三国研修の終了時において、第三国研修ごとに設定された目標の大部分は達成されており、各目標の有効性は高かった。

多数の参加機関が自国において、第三国研修で得られたアクションプランの結果として、パイロットプロジェクトを実施したことが確認された。また、このプロセスを通じ第三国研修から得られた知識と技術が普及し、受益機関の組織能力の向上にも貢献した。このように、第三国研修は、受益国に実質的な結果と影響をもたらした。

(a-2) 政策の妥当性(最終目標2):

メキシコに対する日本の事業展開計画及び 2014 年国別援助計画では、三角協力の拡大を含む優先分野及び地球規模の環境課題の解決に向けた努力がうたわれている。したがって、環境分野における第三国研修を通じ、メキシコの国際協力関連機関の能力を強化することは、日本の ODA 政策と高レベルで一致している。また、AMEXCID 及び研修実施機関に関するメキシコの規則もまた地域協力強化及び三角協力の推進を通じた国際協力の重要性を確認した。

(b-2) 結果の有効性(最終目標2):

AMEXCID 及びメキシコ実施機関の能力は、第三国研修実施により強化された。特に、第三国研修の計画プロセスにおいて、研修コースと参加者の選定に対しより戦略性を導入し強化された。

JMPP の調整機関である AMEXCID は、メキシコ側関係機関を技術面及び財政面の両面から更なる支援を行うことが可能となった。さらに、JMPP の枠組み以外で AMEXCID に派遣された日本人専門家が特に戦略的計画及び運用メカニズムのシステム化の面で指導や助言を行った。AMEXCID とメキシコ実施機関は南南協力又は三角協力の枠組みにおいて、双方が効率的かつ効果的なパートナーであることを確認した。

(c) プロセスの適切性

JMPP 計画委員会によるハイレベルの意志決定プロセスは、JMPP の強みとして認識されている。さらに、JMPP の第三国研修は、実施メカニズムや運用が確立されておりメキシコにおける最も先進的な国際協カスキームの一つであることが確認された。第三国研修で新たに導入された注目す

べきツールは、プロジェクトサイクル管理として日本の ODA 技術協力に使用されているプロジェクト・デザイン・マトリクスである。

受益国のニーズを特定するための計画段階における活動は、JMPP アプローチの比較優位性を高める重要な要素であり、その中で、JICA の役割、特に JICA の地域ネットワークと技術支援は、AMEXCID とメキシコ実施機関により高く評価された。また、日本の ODA の成果物としての先進的で整備された施設で第三国が実施されたことは、多くの受益国により比較優位点として認識された。さらに、第三国研修の計画及び実施段階を通じ、日本の技術が地域の状況に応じてメキシコ実施機関によって現地に対応するよう調整され、これは参加国により有効であると認識された。

モニタリングとフォローアップメカニズムに関しては、制度的なフォローアップの提供の必要性が強調され、その有効性は受益国及びメキシコ実施機関によって高く認識された。しかしながら、評価時点においては、モニタリング活動は、第三国研修プロセスにおいて体系化されていない。

メキシコの国際協力能力の強化及び JMPP 実施を通じた地域開発における高い有効性の達成について両政府は高い関心を有しており、両国の戦略的関係は、JMPP における第三国研修方法を進展させることによって質的に強化されてきている。

6. 提言

(a)第三国研修の受益者の戦略的選択プロセスの強化

本評価の結果、同研修の関連テーマを実践している国や第三国研修により得られた技術又は知識を活用可能な能力を有する機関において、第三国研修の有効性やインパクトがよりよく達成していることが示された。そのためには、戦略的な対象国選定が強化されるべきであり、選定基準は第三国研修委員会にて個々に議論されるべきである。

(b)第三国研修の有効性を高めるための第三国研修実施枠組みにおけるモニタリング及び評価メカニズムの強化・集中

モニタリング及び評価活動は、第三国研修参加者が受益国においてアクションプランを効果的に実施するために必要不可欠であり、また、第三国研修実施機関にとっては戦略的計画や研修コースの実施のために必要不可欠である。実際のニーズや現地調査を含むモニタリング及び評価活動の高い有効性を考慮しつつ、その実践が全ての第三国研修が受益国にとって有効性を向上させ、更なるインパクトを産むために標準化されるべきである。

(c)更なる効果を生むための第三国研修達成に対する持続的支援

政治制度の中で新しい知識や技術を適用することは時間がかかる。様々なアクターが含まれておりそれらの文化を変えるには長期間の政治的・社会的キャンペーンが必要となる。従って、研修実施後に受益国に対する追加支援が第三国研修戦略の一部として考慮されるべきである。

メキシコ人専門家派遣の効率的活用、JMPP の効率的態様について、アクションプランを実施する第三国研修参加者への支援を積極的に強化すべきであり、これにより、受益国においてより良い結果をもたらされる。

さらに、第三国研修の持続性を強化するために受益国が要求する第三国研修の関連事後活動を支援するための柔軟な資金調達メカニズム確立の実現可能性を分析する必要がある。

(d)JMPP が比較優位をもつ環境分野の第三国研修を含む三角協力のさらなる発展

評価時点において、確立した比較優位性及び関連する JMPP の知識や技術へのニーズがあるにも関わらず、第三国研修も他の JMPP の活動も実施されていない。

JMPP は環境分野での能力を効果的に利用したプロジェクトを行うべきであり、メキシコ実施機関が第三国研修を実施することにより国際協力活動を行う能力を獲得したことを認識しつつ、彼らが将来の国際協力において積極的な役割を果たすことが期待されている。しかるに、JMPP は環境分野における彼らの能力を効果的に引き出す十分な数のプロジェクトを実施すべきである。

(e)AMEXCID の調整機能の更なる強化及び拡大

本評価によって、JMPP の実施や AMEXCID への日本人専門家の派遣を通じ、AMEXCID の能力が実質的に強化されてきたことが確認されたので、第三国研修で得られた知識の AMEXCID 内及びメキシコ大使館における共有が強化されるべきである。また、AMEXCID は、AMEXCID の潜在的な機能強化に繋がるよう、他のドナーと更なる調整を模索していくべきである。さらに、過去6年間で第三国研修への財政的支出を行ったことを認識し、AMEXCID は、将来の第三国研修における計画プロセスにおいて、財政的な説明責任を果たせるよう考慮すべきである

(f)JMPP の認知度の向上、宣伝活動の強化

本評価では、第三国研修と JMPP が受益国において十分な知名度を持っていないことが示された。メキシコ大使館やJICA 現地事務所と協力し、全ての受益国で JMPP の認知度を高める必要がある。

(注)上記は、評価実施者の評価報告書を基に現地にある日本の在外公館にて要約し、日本語訳したものです。